

# 第43回全国学校医学校保健大会(熊本)

学校メンタルヘルスのかさ上げ活動—全個別生徒  
への内面理解が学校を変える

日時:2012年11月10日

場所:ホテル日航熊本

三重県医師会 学校メンタルヘルス分科会  
長尾圭造

# 学校メンタルヘルス取組のコンセプト

- 目的
- いじめや嫌がらせのない安心できる環境で、クラス意識の高い仲間形成を築くことにより学校生活の環境を整えることである。
- そのためには子ども達をメンタルヘルス(精神的健康度)の視点から捉え理解することであり、このため学校と医師会が協力している。

# メンタルヘルス上問題があると想定される生徒への対応

- 担任が受け止めるべき問題
- 担任ではなく養護教諭が受け止めるべき問題
- 養護教諭：学校が果たすべきメンタルヘルス問題の担任生徒からの一次的機能である窓口機能の役割を果たす。
- その後、二次機能として学校の社会資源であるスクールカウンセラー、学校社会福祉士、校医への流れを作ることになる。
- 第三次機能としてはさらに二次機能社会資源から専門分野や関連分野への橋渡しを行い問題解決を求めることである。

# 作業準備としての調査アンケート

- 1. クラスの居心地に関してはQUテストを用いている。
- QUテストの結果は、クラス全体の特性を理解する。
- 次いで要支援群にいる生徒初め、学校生活満足群以外で集団からかけ離れた位置にいる生徒を取り上げる。
  
- 2. 自尊感情に対してはCoopersmithの自尊感情項目を用いる。
- 実施の結果、平均値を1標準偏差より下回る生徒を対象に検討する。
- 次に健康度の高い生徒(クラスのリーダー役を担える生徒、協調性の高い生徒でクラスメイトに親切にできる生徒)を知る必要もあることから、高得点群にいる生徒も検討の対象とする。
  
- 3. 健康症状チェックは著者が作成したものを使用している。
- 生徒個人の問題がクラスに課題があるというよりは、個人の内面の問題を反映している場合で、不安とうつ症状を見る。

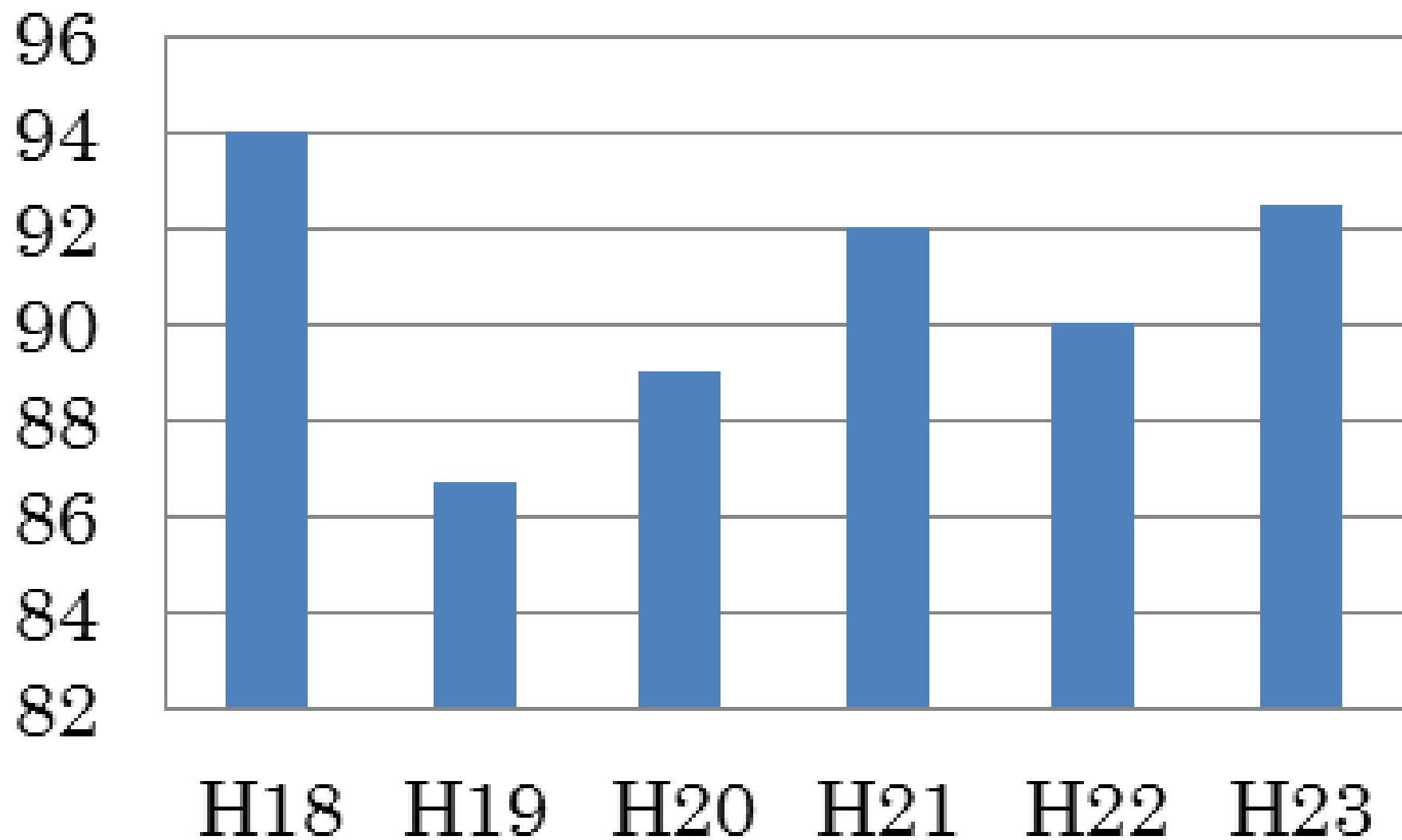
# 対応

- この結果を踏まえて、クラス担任はクラス生徒への日々のアプローチを組み立てる。
- 個人対応
- クラス対応
- 保健室対応(2次、3次機能を含む)

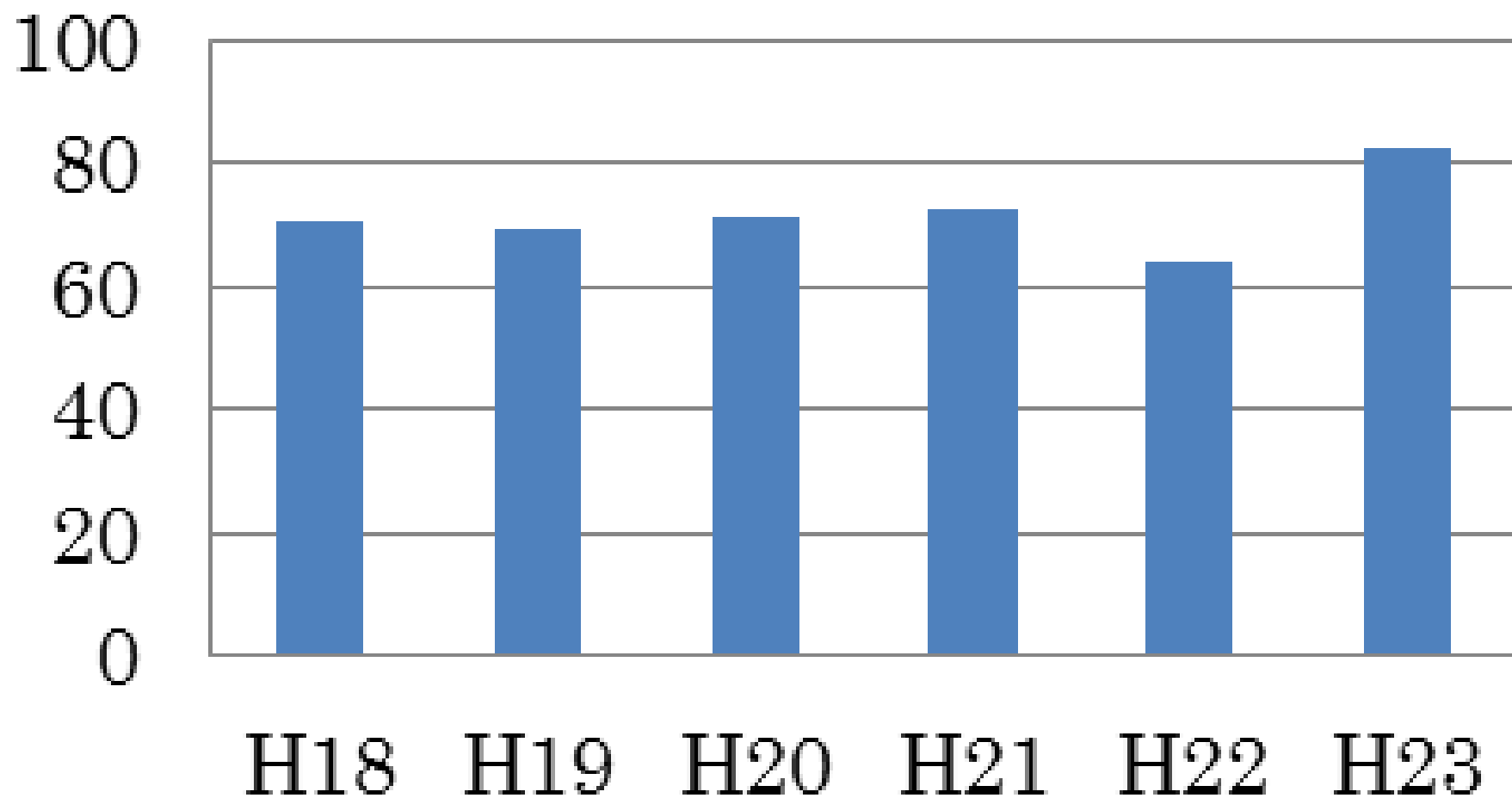
## 評価の方法

- 学校が行っている生徒へのアンケートのうち、継続して同じ項目を聞いている項目を取り上げた。
- この6年間の生徒の学校に対する評価から見た。

# 学校生活は楽しい

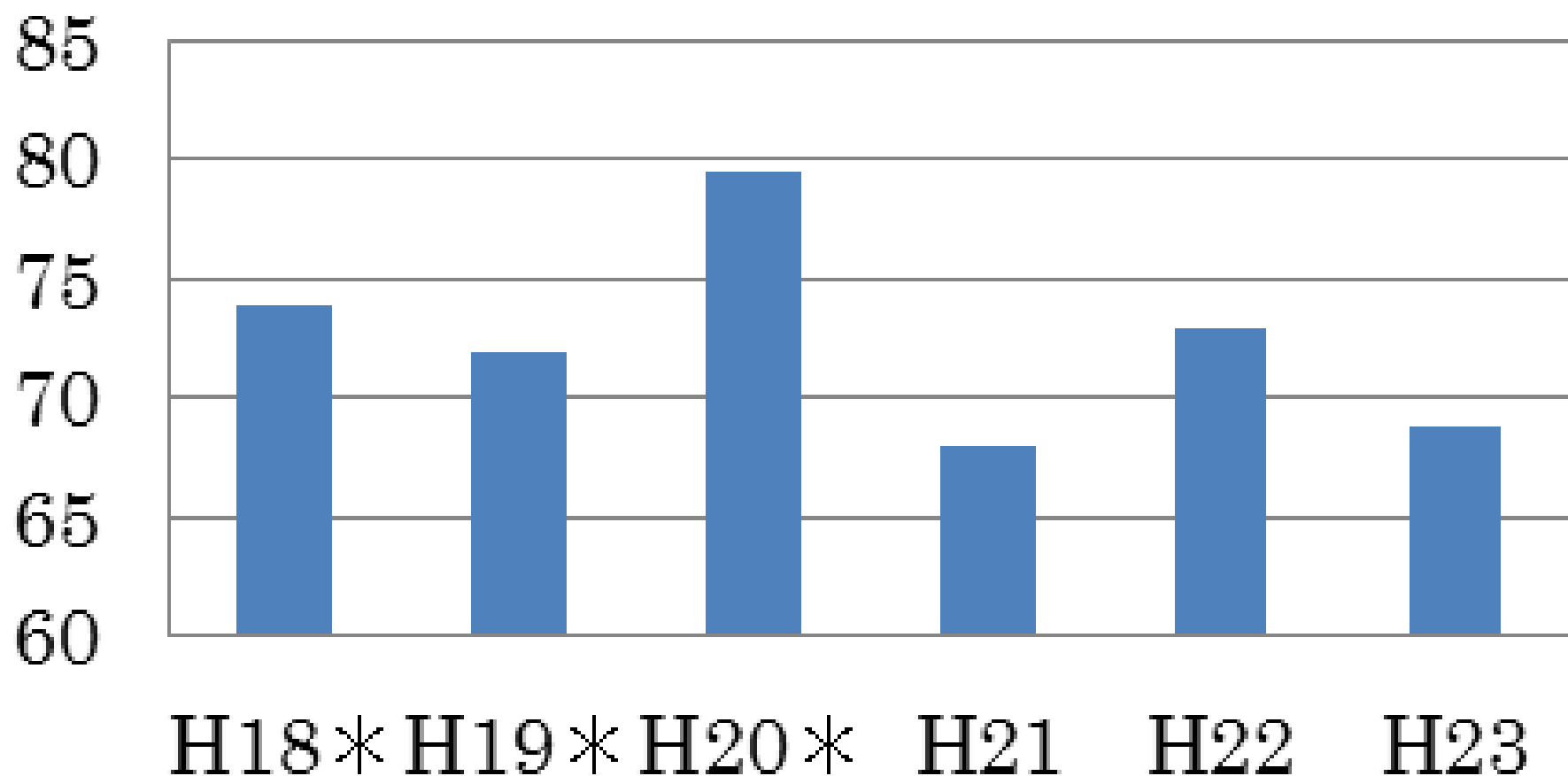


# 目標を持って学校生活を送っている

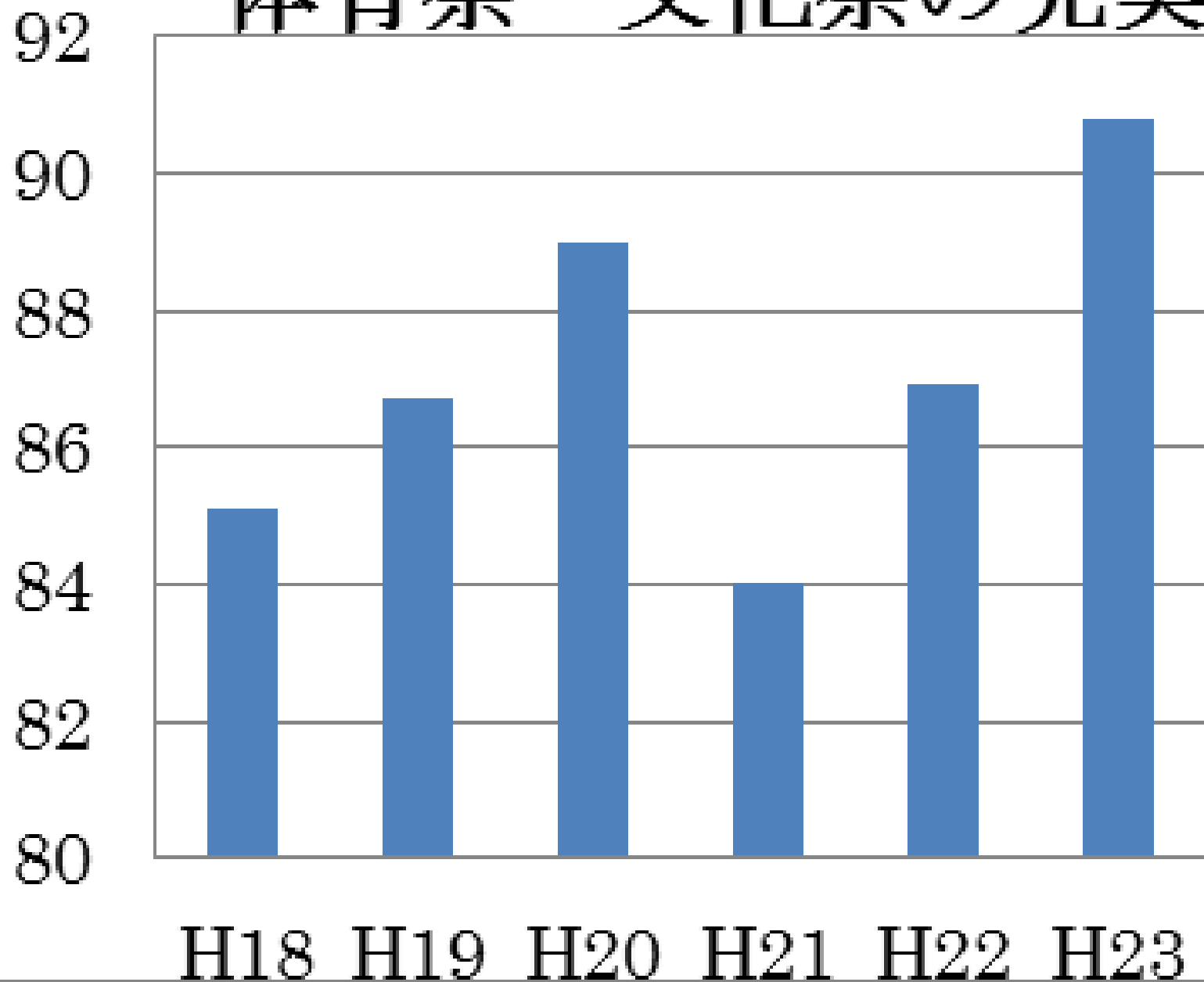




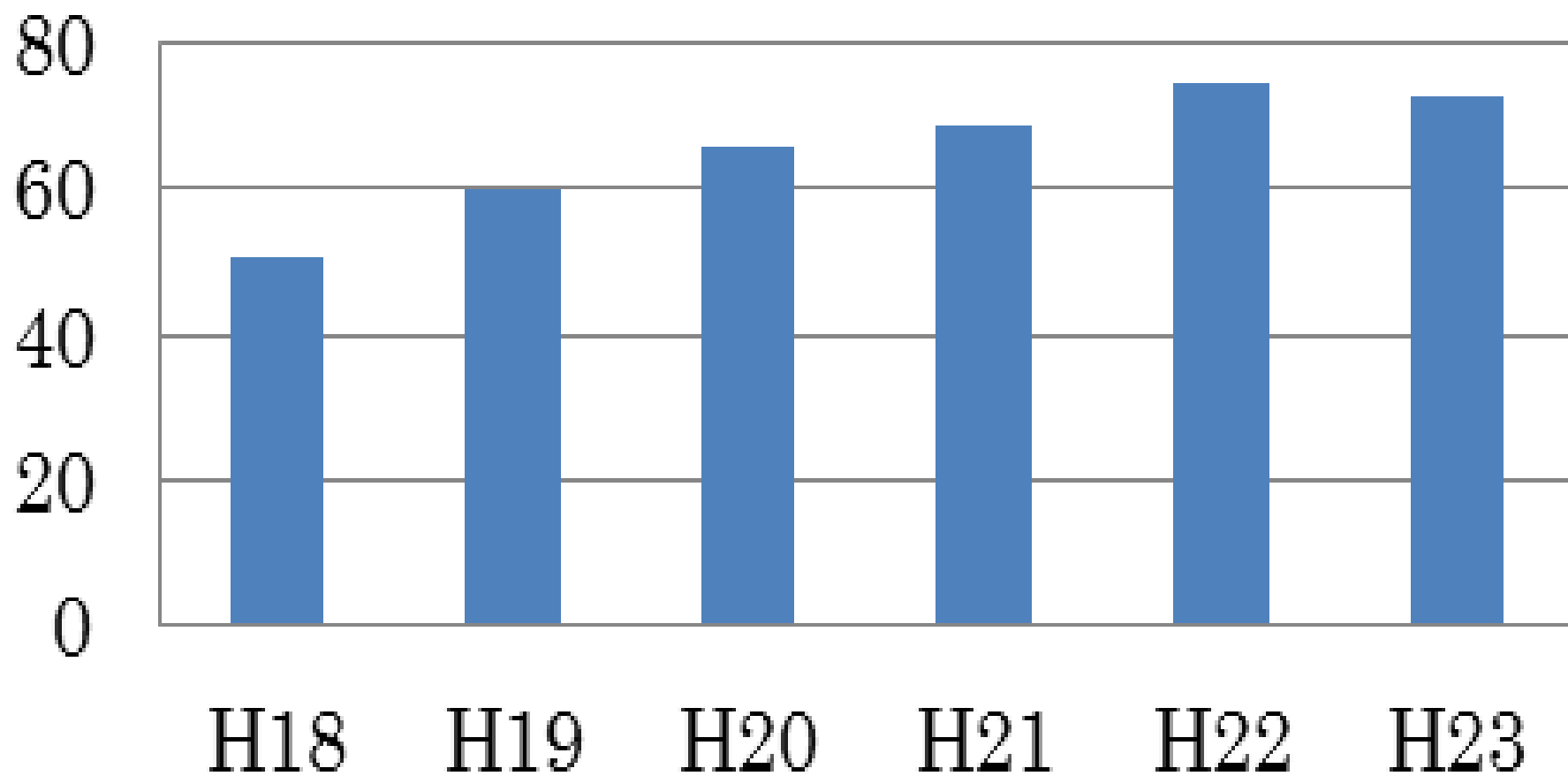
# 授業内容をほぼ理解している （\*授業が判る）



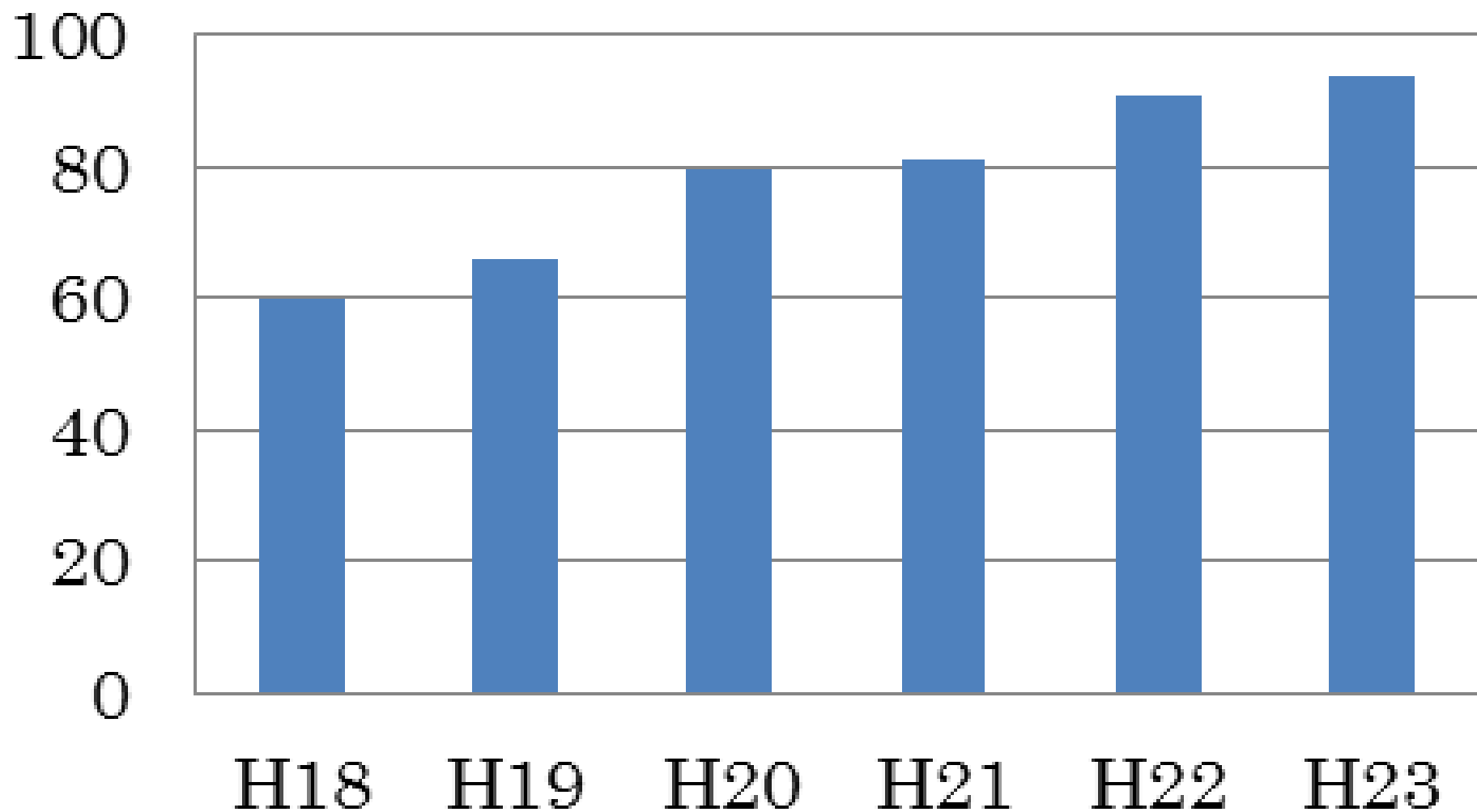
# 体育祭・文化祭の充実



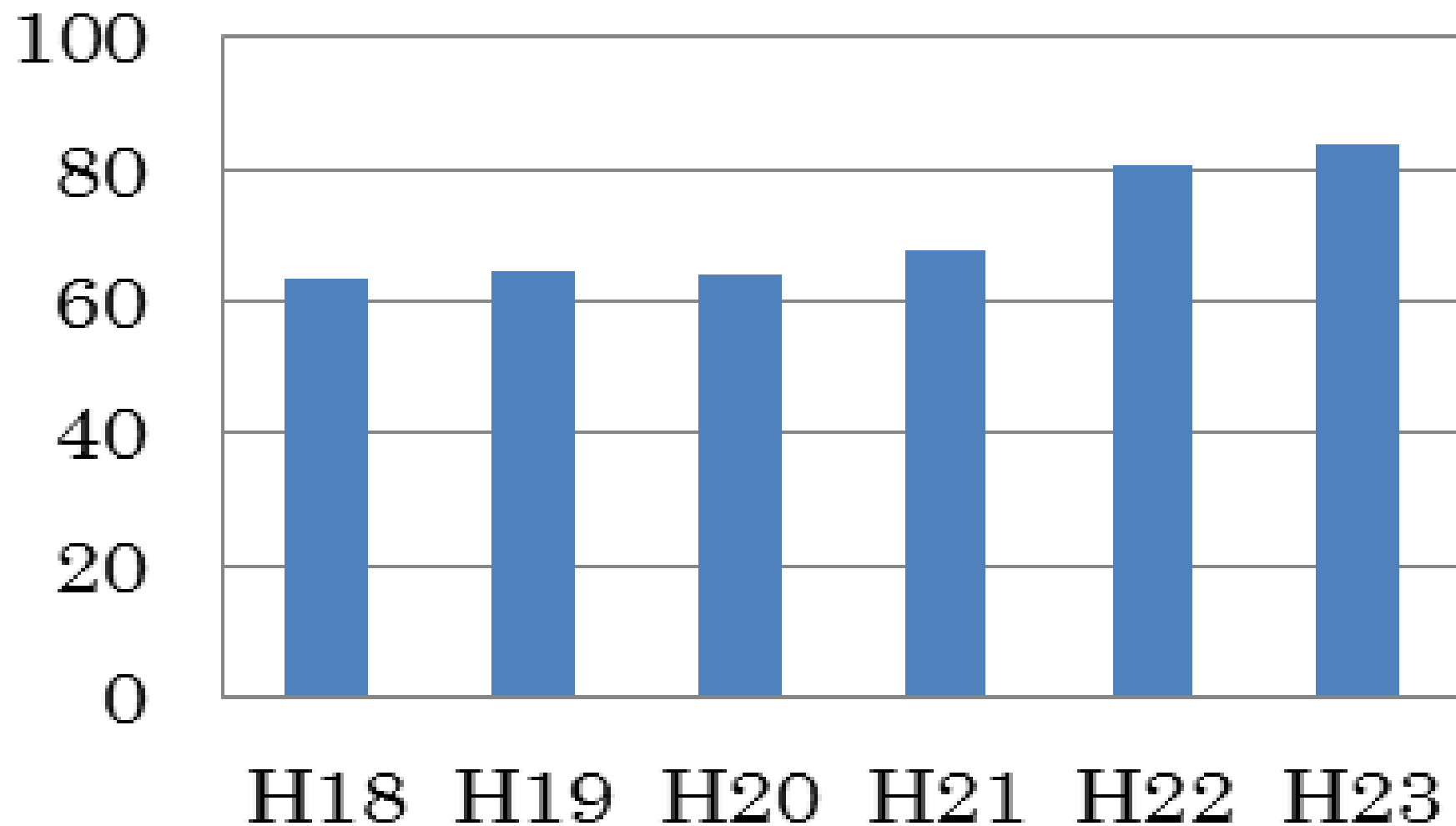
# 先生は生徒を公平に評価している



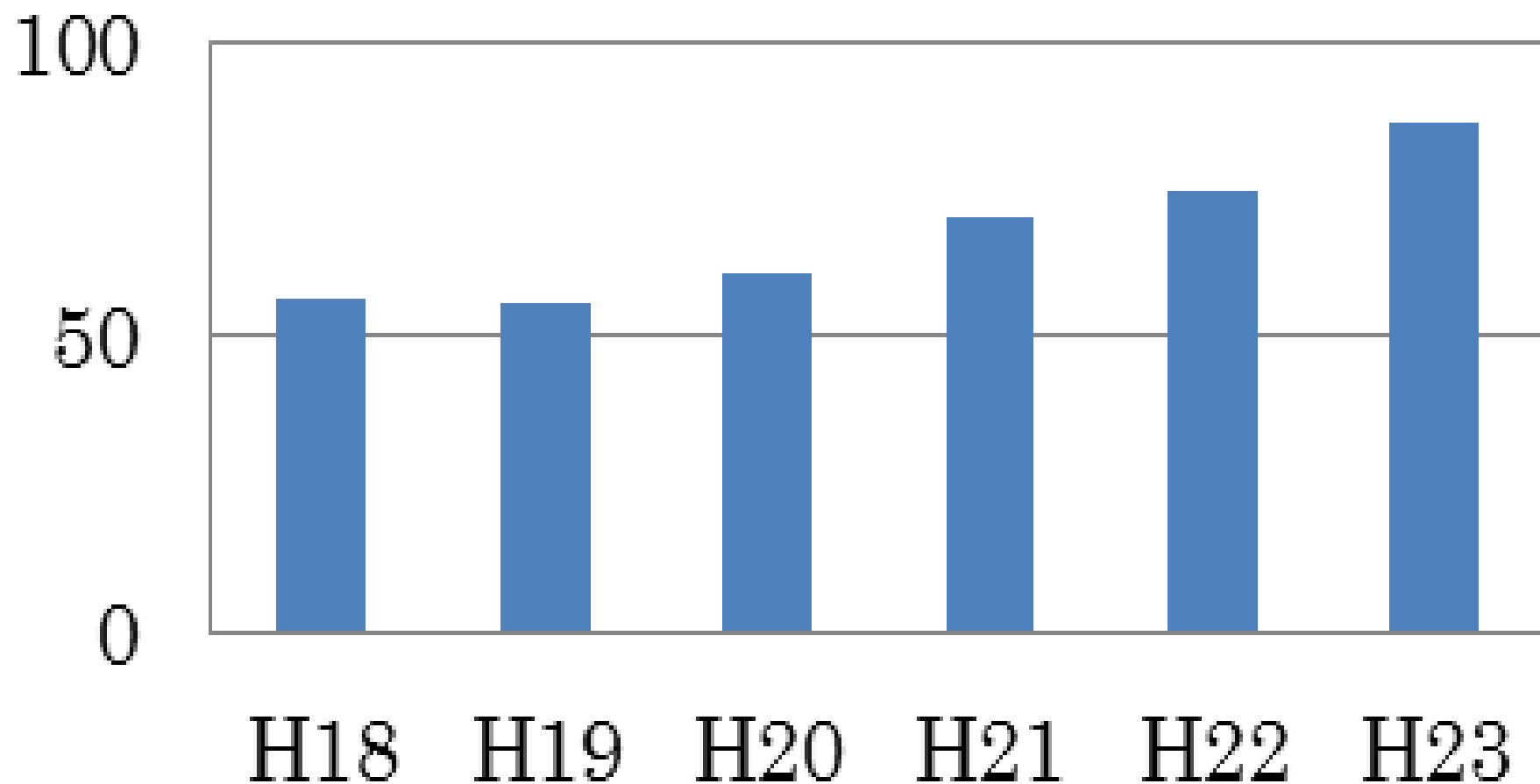
先生は学力をつけるようにしている  
（判り易い授業をしている）



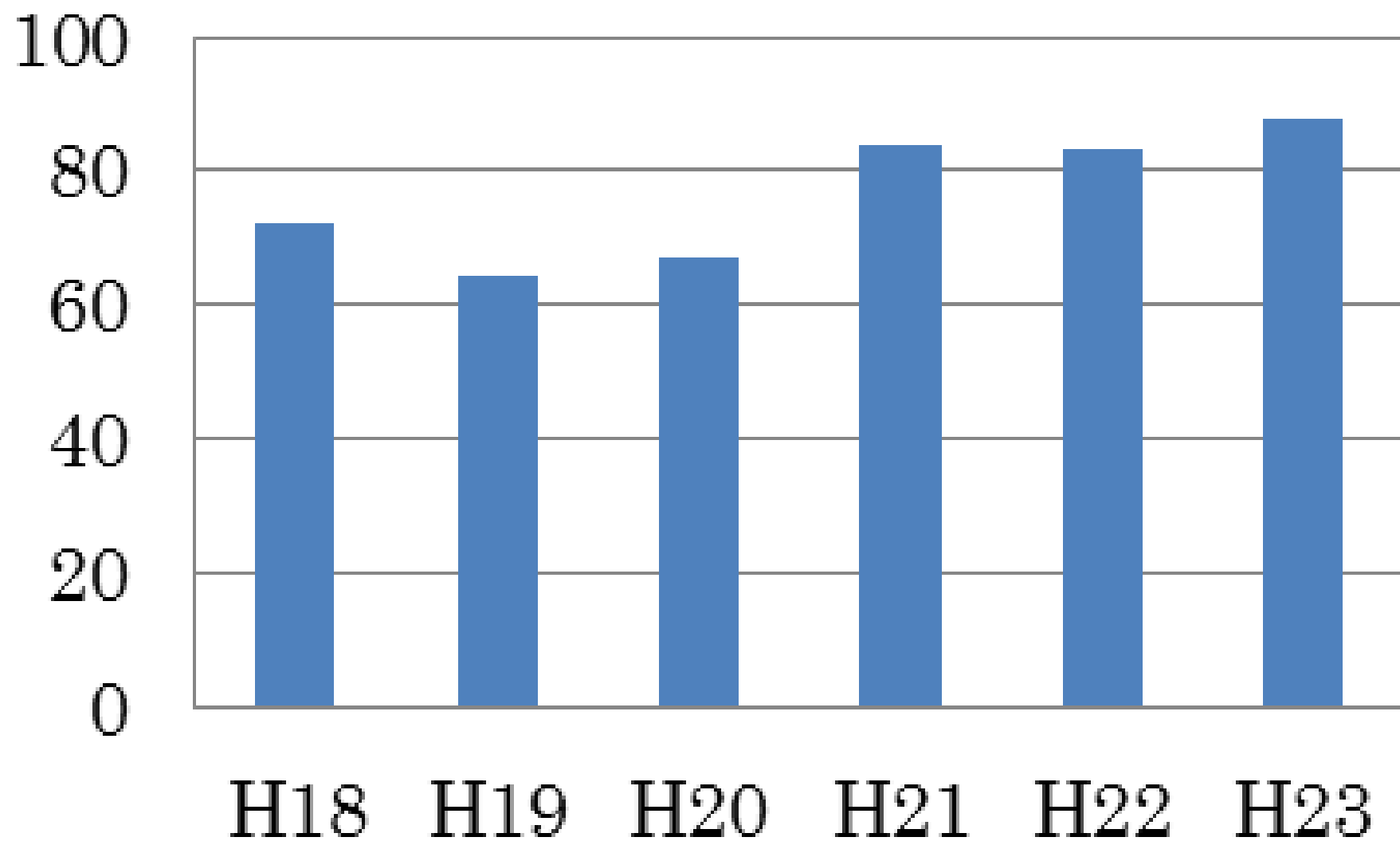
# 先生はあなたのことを理解してくれている



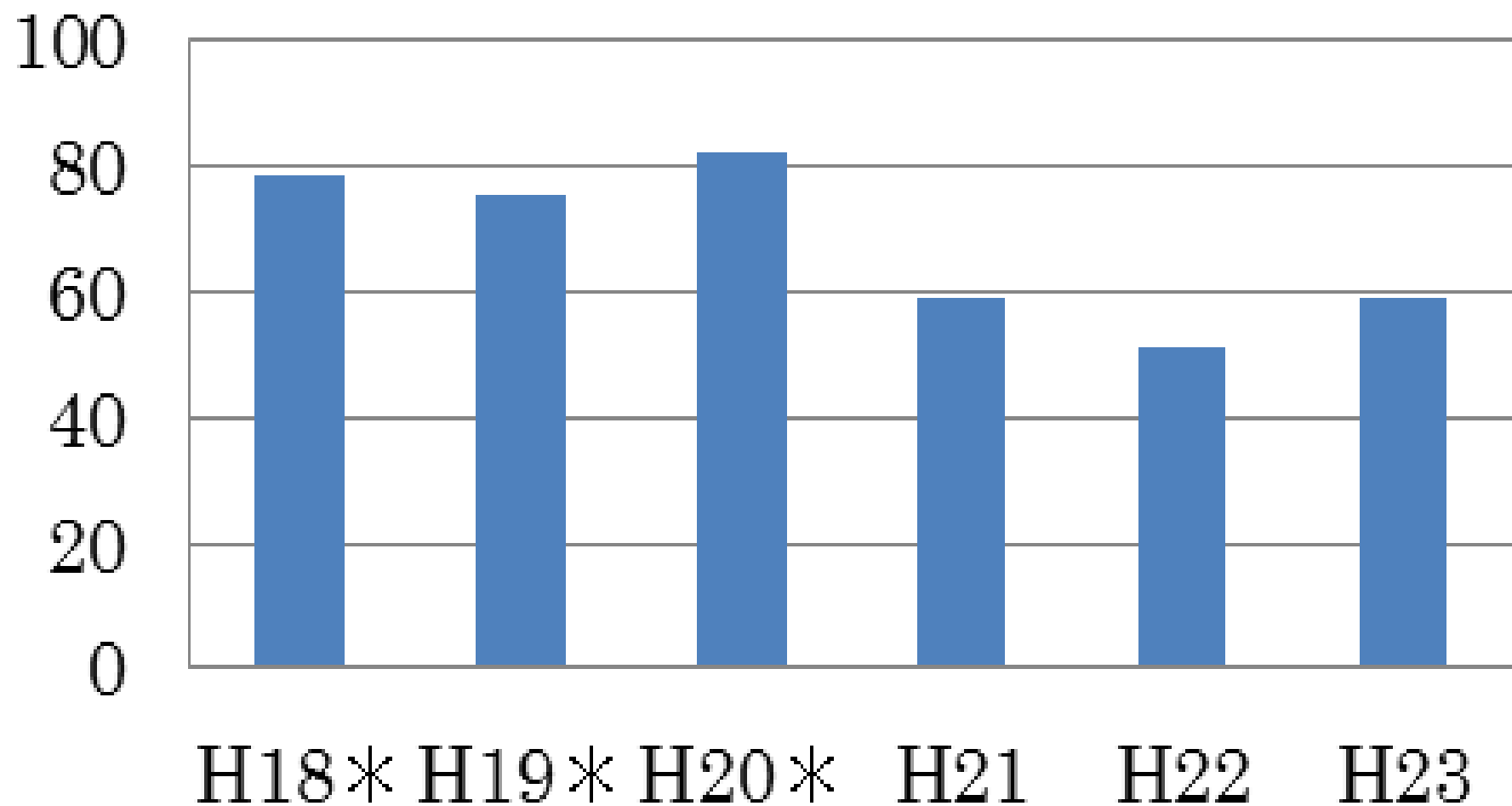
# 先生は決まりなど同じように指導している



部活動が充実している、た。

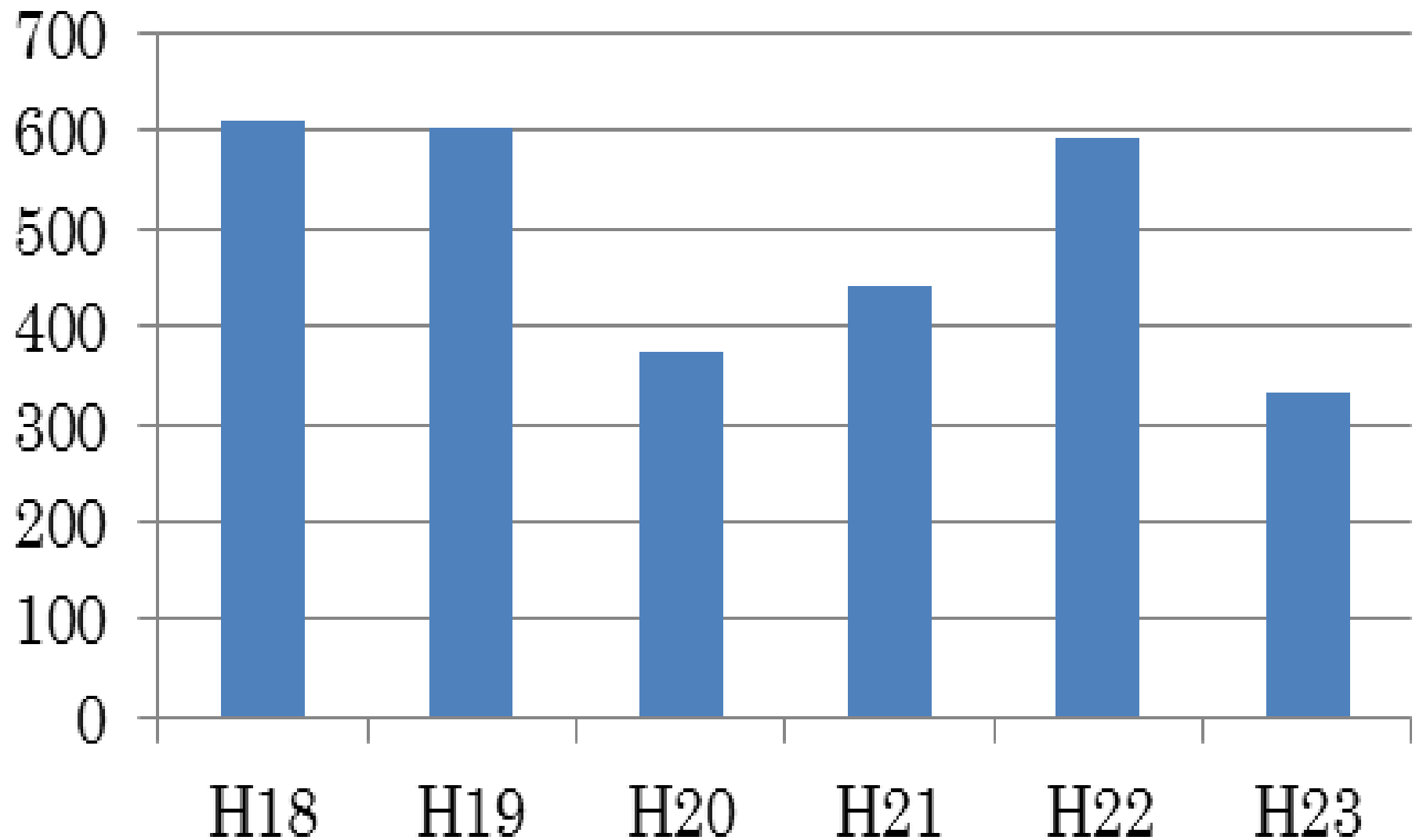


# 地域ボランティア活動に参加 (\* 地域活動が充実している)

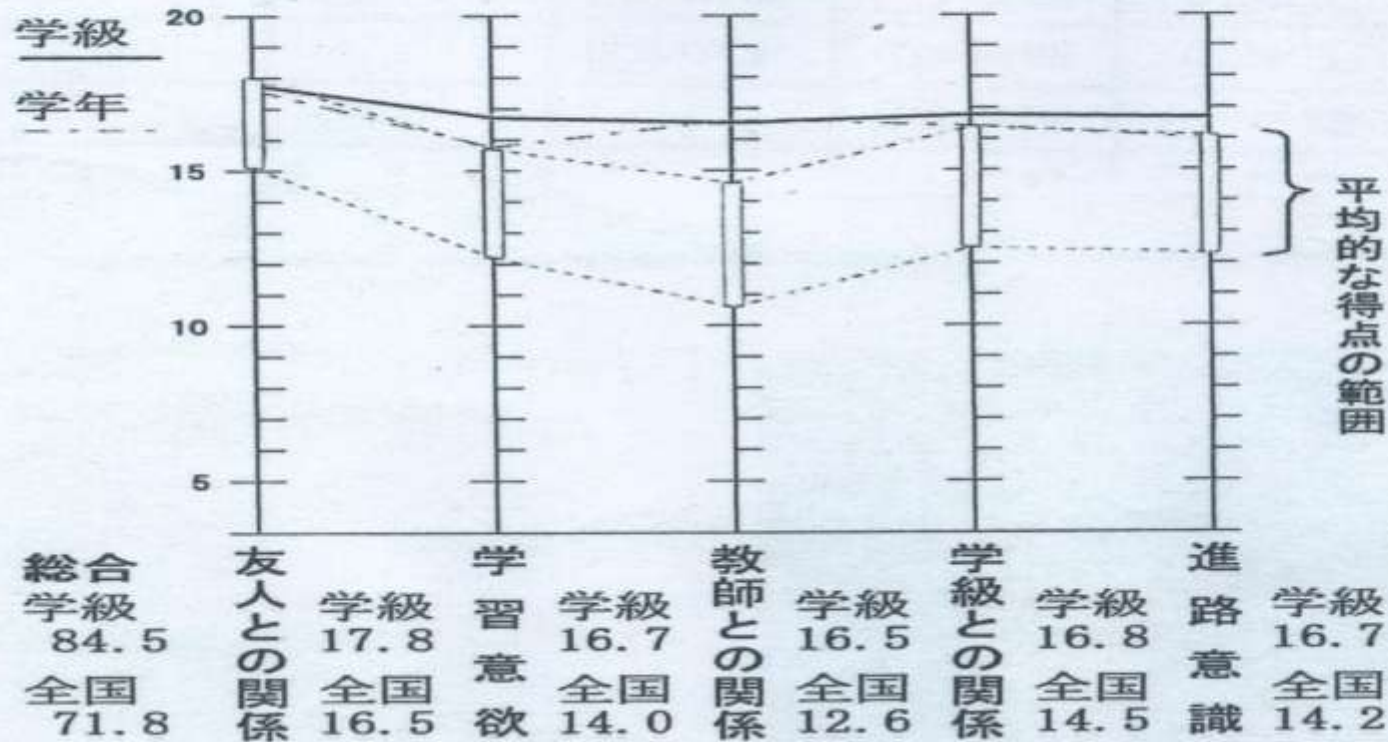




# 登校不能な延日数



# 学校生活意欲プロフィール



A1

© 教研式 図書文化

# 健康症状チェック表

中学校 年生用

この1年間で、あてはまる、強い症状には◎、時々ある症状には○をつけてください。 ( 1, 2, 3年 137名 )

睡眠	(46)寝つきが悪い (34)早く目が覚める (65)ぐっすり眠った気がしない
考え事	(61)なかなか考えられない、ボーとすることがある、決めるのに時間がかかる (44)気になって仕方がないことがある (52)悪い方に考えてしまう (5)希望がない (2)もう助からない (24)将来の事は夢がない (16)将来は考えられない (8)これからいい事はないと思う (8)死んだほうが楽と思う (8)死にたくなる (4)実際、死のうとした (38)過去を後悔している (27)できれば生まれ変わりたい (16)何をしても何かしっくり来ない (17)どうも自分が自分でないような気がする

気持ち  
・意欲

(31)いつも不安に感じる (18)あれやこれやと気になり集中できない

(40)怒りっぽい(15)楽しい気がしない、うっとうしい気分になる (16)気分が沈む (6)むなしい、しらけた気分になる

(10)自然に涙がでてくる (7)好きな事もやる気がしない、していても面白くない

(15)全てのことにやる気が起きない (3)いつもする楽しみ事もしたくない

(12)気まぐれ気分になる、やけくそ気分になる

(24)何か人に悪い事や迷惑をかけてしまったと思う、悪いのは自分だと思う

(19)誰かそばにいて欲しい・人恋しい (9)淋しい

(12)一人でいたい・かまわれたくない

(32)自信がない (22)他の人の勢いに負けてしまう

(27)私はダメな人間と思う・能力がない (5)劣等感が強くなった

行動 (17)口数が減った (16 )声が小さくなった  
(30)一人で部屋にいる (34)外出しない、減った  
(33)好きな事だけならしていただける

(23)好きなこと・勉強に集中しようと思うが集中できない  
(26)しようとするが、ちょっとがんばるだけで疲れやすい

(1)自傷行為をした (何:

(5)甘えん坊になった (10 )何でも聞く質問したがる  
(0)添い寝をしてもらいたい

身体症状

(46)あり(便秘・発熱・食欲低下・頭痛・腹痛・頻尿・夜尿・遺尿・その他( ))

(97)全くなし、ほとんどなし

これからの  
事

(21)どうしていいかわからない

(74)今のままでよい

(8)何とか元に戻りたい

(2)カウンセリングを受けたい

(7)自分より〈親・家族・学校・友達・そのほか〉を何とかしてほしい

## まとめ(1)

- 学校では、学校として大きな全般的な教育指針が立てられる。
- それを前提に各担任や教師が生徒たちを指導する。
- メンタルヘルスカさ上げ活動は、その際に、**クラスの様子や病理、生徒の個人の内面やその病理**を浮き彫りにさせる。
- このために、先生にとっては指導が一律の教条主義的対応から脱しやすくなり、**内面の理解をした上での個別指導**をよりしやすくなる。

## まとめ(2)

- (学校から見れば)
- メンタルヘルスをかさ上げすれば、学力が上がる。



# 三重県医師会学校メンタルヘルス 分科会のメンバー 及び協力者・協力校

- 青木重孝(県医師会会長)
- 駒田幹彦(県医師会理事)
- 野村豊樹(県医師会理事)
- 長尾圭造(分科会長)
- 山城武夫(委員)
- 山中千聡(委員・県教育委員会)
- 西口美香(委員・小学校養護教諭)
- 小林篤(県医師会副会長)
- 橋上 裕(県医師会理事)
- 今野信太郎(県医師会理事)
- 坂野信彦(委員)
- 奥田秀紀(委員・県教育委員会)
- 尾内 敏(委員・中学校長)
- 川合優子(委員・高等学校養護教諭)

## 協力者

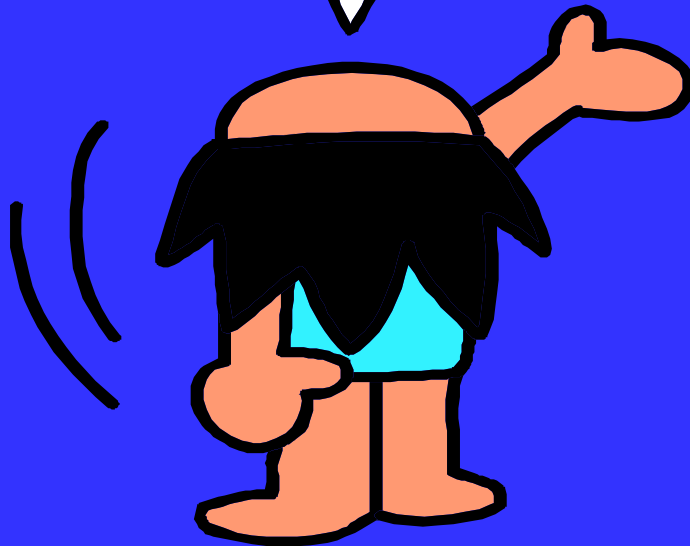
- 柿元真知(あすなろ学園・医師)
- 平井香(南勢病院・医師)
- 藪 泰宜(南勢病院・医師)

## 協力校

- 三重県立神戸高校、津市立南ヶ丘中学校、津市立香海中学校、
- 伊賀市立崇広中学校、津市立神戸小学校、津市立香良洲小学校、
- 津市立高野尾小学校、伊賀市立久米小学校

ご静聴

ありがとうございます



ございました